

<b>Title</b>	青年期の樹木画についての研究
<b>Author(s)</b>	山田, 麻有美
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢, 11(4): 169-181
<b>URL</b>	
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 青年期の樹木画についての研究

山 田 麻有美

A Study of the Baumtest Used with Adolescents

Mayumi YAMADA

The purpose of this study is to enhance the accuracy of interpretation of the Baumtest when used with adolescents. Assessment was made using the Baumtest and MMPI (a mini version in Japanese). Two tree drawings which interpret the answers that reflect one's state of mind on the MMPI were picked out, and the results of the analysis on the Baumtest were compared with the results of the interpretations on the MMPI. The results of this study were as follows: (a) The Baumtest reflects states of mind one might not be conscious of. (b) The Baumtest is a brief and accurate method for understanding adolescents.

## 1. 問題と目的

当初スイスの職業相談家 Koch, K. が職業ガイダンスに用いていた Baumtest は、1960年代に日本に紹介されてから30年になる。この間、実施法が簡便であり、被検者にも受け入れられやすい描画法心理検査の一つとして、心理臨床の場で広く用いられるようになってきている。

さて、近年、人格発達の遅延あるいは偏りともいべき一群の学生の存在が、顕著になってきている。学生の無気力状態 student apathy に関する研究も多い。多くの学生は、対人関係に困難を感じている。対人関係の困難さが、学生生活の継続を断念させる原因となることも少なくない。また、ゼミの選択が滞ったり、受講科目の決定ができずに履修登録が滞ってしまうような自己決定のしにくい学生も増加してきている。

このような学生に共通することは、内面を言語によって表現することが苦手である、という点である。その場限りの言葉遊びはするが、話が苦手なのである。自分が困っていることを、言語で考え、言語で表現し、誰かに伝えることによって、その困難な状況から逃れようとしな。客観的に

---

**Key words;** Baumtest, MMPI, Adolescence

不都合であろうと思われる状況を当の学生は、困難な状況とは感じていないのか、表現する内的な欲求が彼らの中に存在していないのか、あるいは困難な状況にあることは感じていても表現する手段＝言語表現がしにくいだけなのか。いくつかの場合が考えられるが、いずれにしても内的生活の貧困に起因するといえるだろう。

このような学生を理解するには、言語を用いない理解の方法が必要である。学生が自ら言語で内的な状況を表現するのではなく、しかも学生の内的な状況が表現される方法としては、投映法が有効であろう。中でも、樹木画は、Kochの指摘したように、樹木の持つ生命力、すなわち生きている樹木はその生命が続く限り成長し続けるのだが、その成長の力が、人の内的なものの投映を促す。Baumtestは、学生が、内的状況を言語を用いずに表現するのに最適といえよう。

筆者は、「青年期の樹木画についての一考察—Koch, C. のバウムテストを基にして」（1997）および、「学生理解の手がかりとしての樹木画についての研究」（1998a）において検討してきた。その中で、前者に於いては、描かれた樹木画のサイズが、個々の内的状況のバランスの良さを示したり、反対に不安定さを示したりすることを明らかにし、後者に於いては、学生の言語を媒介とした表現や態度は、そのままその個人の内的生活を反映するとは言えないことを明らかにした。

一方、ミネソタ多面性格検査をもとに日本に於いて標準化された「MMPI-MINI 自動診断システム」は、オリジナル版から250項目を抽出し26尺度で構成されている。この質問し性格検査は、実施が簡便であり、青年期（15-22歳）・成人前期（23-39歳）・成人中期（40-59歳）・成人後期（60歳以上）の4つの世代別に標準化されていて、被検者の人格構造を理解するための情報を得ることが容易である。多尺度で構成されている点と年代別に標準化されている点から、学生の樹木画の考察にあたり、テストバッテリーとして適当と考える。

本研究は、Baumtestの、学生理解のための精度を高めることを目的としている。そのため、「MMPI-MINI 自動診断システム」で青年期の一定の心理的特徴を持つと推定される学生の描いた樹木画を考察する。

## 2. 樹木画の収集と抽出

1998年4月にS大学で心理学系科目受講者（F：40，M：23）にBaumtestを実施し、63枚の樹木画を得た。

1998年6月にMMPI-MINI 自動診断システムを実施し、自動解釈プログラムにより解釈を行った。そして、「受検態度」の項目で、「被検者の真の状態は正確に記述されており、現在の精神状態が反映されていると考えられる」とされ、また「診断印象」の項目で「目立ったストレス症状は現れていない」「適応上の重大な問題は見られず、基本的には正常であるという印象を与える」とされた被検者の樹木画を考察対象とした。その結果、2枚の樹木画を得た。図1及び図2が抽出され

た樹木画である。

### 3. 樹木画の分析

#### 1) 樹木画(a)の分析

##### 形態的特徴

：太い幹と細い枝

枝は左方向に伸びたものが7本，右方向が5本。

根の広がりや樹冠の広がりと同程度の幅を持つ。

樹冠までの高さは，幹の太さに比べて短い。

すべての枝は幹の太さに比べて細い。

全ての枝は，幹の中央付近から左右に接ぎ木をしたように，段状に描かれている。

幹は，先端部まで太く，先端部で急に細くなっている。

タケノコに細い枝が生えているような形。

枝には，楕円形の「葉」または「実」が描かれている。

根は，地面で区切られている。

樹冠部は，枝とそれに付属する「葉」または「実」によって描かれている。

幹近くから少し離れて樹木を見上げたように描かれている。

幹に線條の影が描かれている。

枝から出る枝も，接ぎ木したようなものが多く見られる。

「葉」または「実」も枝から直接出ている。

##### 樹木の安定性

：ほぼ左右対称に描かれている。

樹冠部は左右と上下に頂点がある菱形で，木々の頂点の部分が少し欠けている。

枝は，左下方向が右下方向より大きく描かれ，木々上方向で左上方向よりやや大きく描かれている。

##### 描画線の性質

：筆圧は普通。

鉛筆を横に寝かせてきているような線が多い。

枝には，えんぴつを立てて描いた線が見られる。

枝を描いている線には，強い筆圧のものと弱いものが混在している。

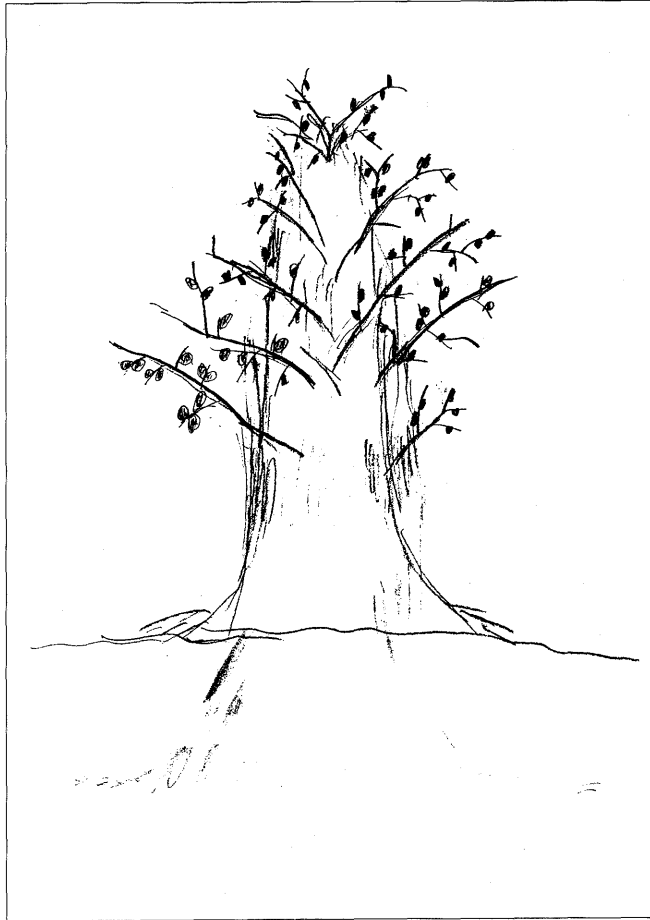


図1 樹木画(a)

頂上付近の枝と、左側の枝には強い筆圧の細い線が多く見られる。

#### 描画線の連続性

：幹のアウトラインの描画線は、不連続で、2-5 cmの長さの線を重ねている。

枝の描画線は、5-7 cmの長い線の上に単線を何本か重ねている。

枝先を描き足している部分もある。

#### 描画線の形状

：幹の線は、直線と円弧様の曲線。

地面の線は、波形の線。

枝は、大半が直線または円弧様曲線で、枝のうち左に3本、右に1本にそれぞれS字を崩した緩い波形の線が見られる。

### 空間12分割内の位置

：地面の線は下から1/3のあたりにあり、樹木は、上の2/3の空間内に描かれている。

頂上は、8 aにある。

幹はおよそ5 a, 8 aに位置する。

右側の枝は、8 bと5 bにまたがって出ている。

左側の2本の枝が、4にかかっている。

### 空間的広がりの特徴

：やや左上に描かれている。

### 印象・解釈

筍のような太い幹と、対照的に細い枝が先ず目を引く樹木画である。細い枝には、「葉」または「実」がまばらに付いている。幹と枝はそれぞれ独立には調和がとれている。しかし、一つの樹木として見るとき、不調和な印象となる。これは、描画者が内的に不整合的な状況にあることを示すものと考えることができる。

樹冠部は枝と幹の先端によって構成されているが、左側への膨らみはやや鋭角に描かれ、また、右側の膨らみは丸みを帯びている。幹は上端で急に細くなり解放されている。そこから左右に細くて短い枝が出てはいるものの、未解決な感じになっている。これは、描画者が内的問題を抱えていて、意識化してはいないが問題の存在に気づいているが、未解決のままにしている、しかも行動上の問題とはなっていない状況にあることを示すと考えられる。

幹の輪郭が不連続な線で描かれ、幹の境界が曖昧になっている。それに比べ、不完全ではあるは一定の秩序を持って並んでいる枝は、比較的強い筆圧ではっきりと描かれている。これは、描画者の自分についてのイメージが不明確であるにもかかわらず、描画者の現実生活が適応的に営まれていることを示すものと考えられる。

Bolanderの空間図式によれば、「喜び・保護・献身・同情・悲しみ・後悔」の領域に幹の大部分が位置しており、「狂信性・理想主義・愛他主義・信仰・想像・宗教」の領域に開いた幹の先端ないし樹冠部の頂上が位置している。幹右側のアウトラインは、その境界が曖昧になっているが、「決意・主導性・自己統制・責任・虚栄心・拒否」を示す領域の左端に位置する。また、下1/3の空白部分に当たる領域は、「依存・安全への欲求・退行・口唇的固着・前意識・発端の原型」の領域、「無意識の欲求・無意識の記憶・母性本能・再生への性本能・女性の原型・豊饒神崇拜儀式」の領域、「無意識の権力欲・識閥下の知覚・自我本能・生殖器への性本能・集合的男性の原型・男根儀式」の領域、「無気力・自己愛・恐怖・混乱・肛門的固着・死・回帰」の領域の4領域である。

樹木画のこの位置から、描画者の意識は、外面的なものに向かっていて、自分の内部に生起して

青年期の樹木画についての研究

(7)	(8a)	(8b)	(9)
神秘主義 直感 憧憬 幻想 夢想 芸術	狂信性 理想主義 愛他主義 信仰 想像 宗教	努力 目標 自覚 達成 几帳面 哲学	完成 計画性 十分な財力 独立 実験 科学
(4)	(5a)	(5b)	(6)
感情的判断 気分 記憶 熱望 受動性 感情の固着	喜び 記憶 献身 同情 悲しみ 後悔	決意 主導性 自己統制 責任 虚栄心 拒否	意志 仕事 伝統 常識 具体性 活動性
(1)	(2a)	(2b)	(3)
依存 安全への要求 退行 後進的固着 前意識 発端の原型	無意識の欲求 無意識の記憶 母性本能 再生への性本能 女性の原型 豊饒神崇拜儀式	無意識の権力欲 識闕下の知覚 自我本能 生殖器への性本能 集合的男性の原型 男根儀式	無気力 自己愛 恐怖：混乱 肛門的固着 死 回帰

表1 Bolanderの空間図式(高橋1986より)

くる無意識的なものには注意を払わない、あるいは、自分の内的欲求を無視している、と考えられる。日常生活に支障はなく、対人関係に大きな困難を持っているとは考えにくい。

Grünwaldの空間図式によれば、描かれた樹木の樹冠部は、「受動性の領域」に位置する。「過去—未来、母親—父親、内向—外向」という左右緊張の中では、やや過去方向・母親方向・内向方向に位置し、「精神—物質、意識—無意識」という上下緊張の中では、やや精神方向・意識方向」に位置する。

ここから、描画者の、生に対する傍観的なとらえ方の傾向、あるいは、日常的な活動に対する消極的な態度を推測することができるだろう。

この二つの空間図式による解釈を考え合わせると、描画者は、主体的ないし能動的な活動を日常的に行うには、心的エネルギーが十分とは言えないだろう。また、自分の内面にあまり関心を払っていない、と考えられ、内的に不整合な状況を放置しているようである。現実生活では、抱えている内的問題を、意識化してはいないが問題の存在に気づいており、その問題を未解決のままにしているが、しかも行動上の問題とはなっていない状況が推測される。また、自分についてのイメージが不明確であるにもかかわらず、描画者の現実生活が適応的に営まれていることから、知的な水準は低くはない。

この樹木画の描画者の心理的特徴は、自己イメージの曖昧さと、現実適応の良さとであろう。

## 青年期の樹木画についての研究

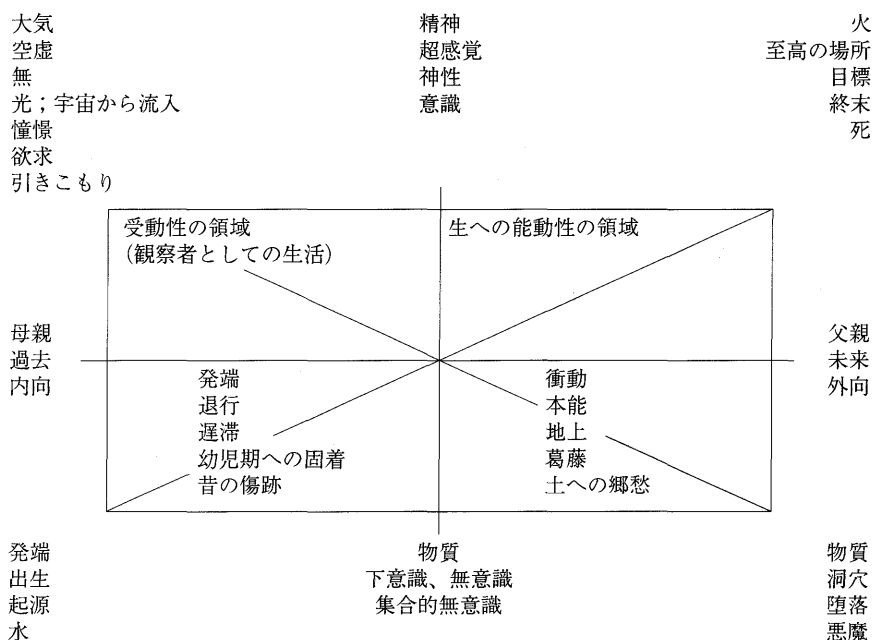


図2 Grünwaldの空間図式 (高橋1986より)

### 2) 樹木画(b)の分析

#### 形態的特徴

: 両端が開いたため幹と、楕円形の樹冠部内の左右にリンゴ様の実のあるマッシュルーム型の樹木である。

大きさは、中程度。

幹は、樹冠部に比べやや太く、内部は空白である。

根の部分の描写はない。

樹冠部は、幹の上部1/3付近から出ている線に囲まれており、中央部分が空白である。

実は、樹冠部左側に6個、右側に5個描かれている。

葉は描かれていない。

地面は描かれている。

#### 樹木の安定性

: 樹冠が幹の太さに比べてやや小さく、根の部分の描写がなく、幹の下部の膨らみもないため、やや不安定な感じである。

#### 描画線の性質



## 青年期の樹木画についての研究

: 幹のアウトラインは、筆圧の強い長めの線を何回も重ねて、約3-6mmの幅である。

横長の楕円形に描かれている樹冠部のアウトラインは、左下の部分は短い線を何度も重ね合わせて2-3mmの幅になっている。それに連なる左側は、2本の線を重ねている。

樹冠部の上の部分から右側は、少しふるえた単線である。右下の部分は、2-3本の長めの線を重ねている。

地面左側は、鉛筆を横に寝かせたような、鋭角の波線と3本の横線を重ね合わせて描いている。

地面中央から右は、不連続な波線で描かれている。

### 画線の連続性

: 重ね合わせている線は、全て不連続で、長いものと短いものが混在している。

### 描画線の形状

: 描画線の形状の特徴は、同一形状の線の重ね合わせである。また、一部を除いて描画線は乱雑である。

### 空間12分割内の位置

: 地面の線は、1, 2a, 2b, 3の下1/3にある。

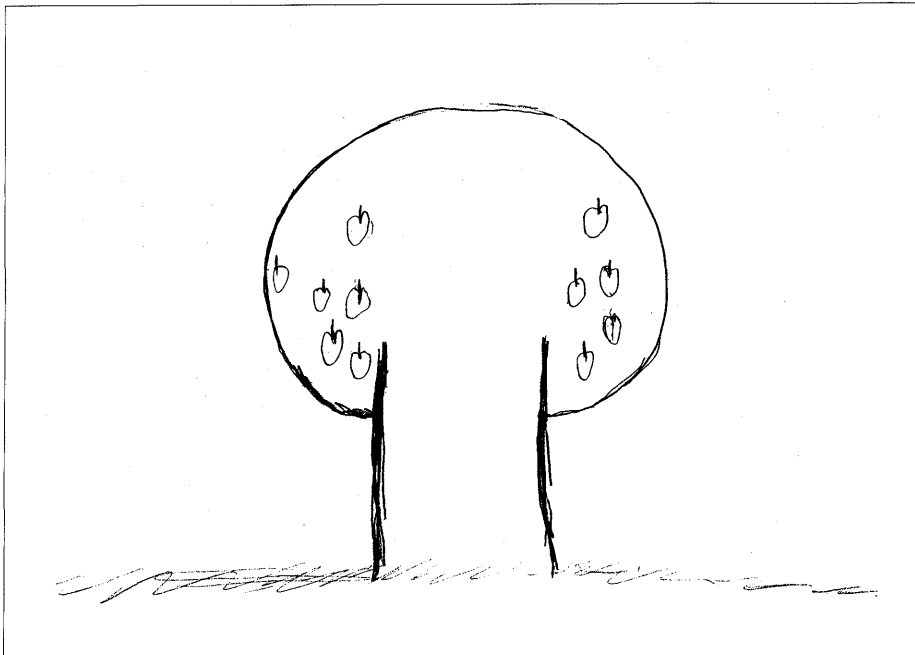


図3 樹木画(b)

幹の左側の線は 2 a, 5 a, 左側の線は 2 b, 5 b にある。

樹冠部は, 5 a, 8 a, 8 b, 5 b にある。

実は, 左の 6 個が 5 a に, 右の 5 個が 5 b にある。

### 空間的広がりの特徴

: ほぼ中央, やや左寄りに描かれている。

### 解釈・印象

乱雑で筆圧の強い線を重ね合わせた 2 本の幹の線と, 幹と幹の延長上の樹冠部の中央部分の空白と, 左右に分けて描かれている実とが特徴的な樹木画である。樹木のバランスは, 樹冠部の大きさに比して幹がやや太めである。この樹木画の左右対称性と中央の空白は, 描画者の内面に対立するものの存在を推測させる。描画者の内面の葛藤状態を示すと考えることもできるだろう。左右の乱雑で強い幹の線が, その対立するものの衝突を避けるために描画者が費やしている心的エネルギーの強さを示す。葛藤状態の強さの故に, 外界との境界を明確にする必要があるであろう。樹木の輪郭線, 特に幹の線が念入りに強調されていることも, このことの表現と考えられる。

地面の線が描かれていることから, ある程度, 衝動の抑制はなされていると考えられる。地面の線は, 鋭角の波線を重ねる描き方がなされており, 筆圧は弱いものの, 強く意識されている。衝動抑制についての意識は強いが, その抑制力が不足気味であると考えられる。根の描写がないことから, 無意識的欲求の吟味が十分になされているとは考えにくい。

樹木は, ほぼ左右対称に描かれており, 樹冠部と幹のバランスは悪くない。ここに, 描画者のステレオタイプの秩序への志向性を見ることができよう。

描画線は, ややふるえた線が基調で, 強調したい部分を重ね合わせている。これは, 本来の自信のなさ, それを補償するため, あるいは内面の保護のため虚勢と考えられる。

画面の中央部分に描かれた樹木画(b)の樹冠部は, Bolander の空間図式によれば, 「喜び, 保護, 献身, 同情, 悲しみ, 後悔」の領域と, 「決意, 主導性, 自己統制, 責任, 虚栄心, 拒否」の領域との間に位置する。「過去—未来, 母親—父親, 内向—外向」という左右緊張の中でも樹冠部はほぼ中央に位置し, 幹の左側の輪郭線が強調されていたり左側の果実場 1 つ多く描かれていたりするものの, 全体としては中央に描かれていて偏りが無い。しかし, 樹木の中心部分が左右の中央に位置しているにもかかわらず, この樹木画が不自然な印象を見るものに与えるのは, 樹木の中心部分が空白になっているからであろう。左右の緊張関係の中でバランスを保ってはいるものの, 中心となる自我ないし自己が確立されていないことを示しているといえよう。また「精神—物質, 意識—無意識」という上下緊張の中では, やや「物質方向・無意識方向」に位置する。しかし, 根の描写はなく, 幹が地面の線によって断ちきられており, 心的エネルギーの希薄さを示しているといえよ

う。

この二つの空間図式による解釈を考え合わせると、描画者は、意識化していないあるいは意識ができない内的葛藤を持つと推測される。また、あまり十分とは言い難い心的エネルギーは、葛藤状態の表面化を避け、当面する課題を解決したり、心のバランスをとったりすることに費やされている、と考えられる。

#### 4. MMPI-MINI 自動診断システムによる解釈

##### 樹木画(a)の描画者について

###### 〈主要な精神症状〉

抑鬱感や無力感についての意識は普通であり、社会的な統制には適当に従うので、対人関係は一般的に良好である。

身体症状をあまり訴えることはなく、身体機能への関心は現実的なものである。

他人を程良く尊重し、思いやる傾向がある。態度は柔軟で、感受性が強すぎることはない。具体的な事柄と理論的な事柄の両方に程良い関心がある。

###### 〈対人関係の特徴〉

社会的技能や能力に恵まれている。交際好きで、出しゃばりで、人目を引くような業をしたがり、他人と簡単に素早く仲良くなれる。パーティなど、楽しいことが好きで、初めて皆の前でしゃべる場合でも落ち着いている。

猜疑心や敵意の強さは普通程度であり、程良く怒りを出す。競争心も普通程度である。

女性的活動や職業に対する興味は平均的である。

###### 〈その他の人格と行動の特徴〉

エネルギーや活動性のレベルは普通の範囲にある。

過度の悩んだり、心配することなく、仕事や生活を適切に組織化する能力がある。

自己顕示欲求に関係した態度や行動は普通程度である。

抑制や統制のしすぎは見られない。社会的な統制には適当に従い、権威や孤独、退屈さについての不満は平均的である。

具体的な事柄と理論的な事柄の両方に程良い関心がある。

##### 樹木画(b)の描画者について

###### 〈主要な精神症状〉

現実的で、具体的な事柄にしか興味がなく、鈍感で、他人の感情に気づかない傾向がある。頑固で怒りっぽく、気むずかしい印象を与える。能力に比較して実績が伴わないことが多い。

過度に悩んだり、心配することなく、仕事や生活を適切に組織化する能力がある。

感覚、動作、身体に関する心理的な不快感は普通程度であり、身体機能への関心は現実的なものである。記憶力、注意力、集中力も正常である。

〈対人関係の特徴〉

社会的には外向で、つきあい好きである。独立心が強く、楽観的であり、自信過剰な傾向が強く、責任や困難が伴うことに立ち向かおうとする。暖かく、落ち着きがあり、多くの人と良い関係を作るのが達者である。意見や行動は社会的なものに左右され、他人から認められたいという欲求があるが、他人の感情にひどく鈍感な場合がある。一般的に不安や心労の水準は低い。

猜疑心や敵意の強さは普通程度であり、程良く怒りを表出する。競争心も普通程度である。

女性的活動や職業に対する興味は平均的である。

〈その他の人格と行動の特徴〉

楽天的な傾向と悲観的な傾向のバランスがとれている。

考え方は奇妙ではなく、エネルギーや活動のレベルも普通くらいである。

自己顕示欲求に関係した態度や行動は普通程度である。

抑制や統制のしすぎは見られない。社会的な統制には適当に従い、権威や孤独、退屈さについての不満は平均的である。

エネルギーや活動のレベルは普通の範囲にある。

## 5. 考 察

### 1) 樹木画(a)について

樹木画(a)の描画者の内面の特徴は、上に述べたように、不整合性である。自己イメージの曖昧さと、現実適応の良さとは、一見別の問題ととらえられるが、この不整合性は、多くの心理的問題の原因となるのである。この描画者は、内面に何らかの問題が存在していることに気づいている。しかし、その問題は、まだ意識化されておらず、行動上の問題となって表面化しているわけではない。未解決の内面的問題はそのままであって、しかも行動上の問題とはなっていないから、描画者は一つ一つの場面では心理的に何の問題もなく過ごしているはずである。個々の場面を見る限り、他者の目にも行動に問題があるようには見えない。しかし、行動全体を吟味すると行動に一貫性がなく、矛盾した行動や理解しにくい行動が出現していることが明らかになるであろう。

このことは、MMPI-MINI に表れた「現実適応の良さ」や「身体機能への現実的な関心」、「社会的な統制には適当に従う」態度などの結果と一致する。また、行動全般が場適応的であることも両者の一致するところである。

また、知的な水準については、表現の違いはあるものの樹木画の分析でも MMPI-MINI でも平

均的水準を上回ると予測している。このことは、内的問題の意識化がなされていないことの原因が、知的な発達の一延によるものではないことを示している。それゆえ、この描画者は、内面と行動の不整合性ないし行動間の不整合性に気づくまでの自我が未形成であることを示すと考えられる。

## 2) 樹木画(b)について

この樹木画の描画者の内的な特徴は、葛藤状態である。拮抗するものの衝突を回避し、葛藤状態の表面化を避け、心のバランスをとっていると考えられる。MMPI-MINI が指摘する「人と良い関係を作るのが達者」であることや「意見や行動は社会的なものに左右されやすい」ことは、その表れといえよう。心のバランスをとるためには心的エネルギーを費やすが、その葛藤状態を意識化し、解決を図る方向には用いられないようである。

紋切り型の秩序への志向性は、自分自身に対する自信のなさを補償ないし保護するためのものと考えられ、「社会的な統制には適当に従う」行動や「現実的で、具体的な事柄にしか興味がない」状態となって表れている。

樹木画に表れた衝動の抑制力が不足気味であることや、その衝動の吟味が十分ではない状態は、MMPI-MINI の「抑制や統制のしすぎは見られない」あるいは「他人の感情に鈍感」といった解釈に表れている。

また、自分に対する自信のなさは、「能力に比較して実績が伴わない」ことに起因すると思われる。

## 3) まとめ

上記の考察で明らかになったように、Baumtest は、その解釈の内容が MMPI-MINI 自動診断システムの分析・解釈の内容とほぼ同じであることが示された。樹木画は、描画者の内面を多面的に表す。そこに表れる内面は、描画者が意識しているか否かには関係がなく、むしろ、描画者が意識化していない内面の状況を表すと考えてよいであろう。それゆえ、樹木画に表れる内面の状況を、描画者は統制しにくい。そこで、Baumtest は、より正確に描画者の内面の状況を捉えることができる、精度の高い簡便な方法であるといえよう。

本研究は、Baumtest の精度を高めることを目的としたが、その目的は達せられたと考えられる。

今回は、MMPI-MINI 自動診断システムの「受検態度」の項目で「被検者の真の状態は正に記述されており、現在の精神状態が反映されていると考えられる」とされ、また「診断印象」の項目で「目立ったストレス症状は現れていない」「適応上の重大な問題は見られず、基本的には正常であるという印象を与える」とされた樹木画を分析に用いたが、それ以外の「受検態度」を持つものの樹木画の分析も、Baumtest の精度を高める上では必要であろう。

さて、一方、上記 2 枚の樹木画が示す、「自分についてのイメージが不明確」であって、にもか

## 青年期の樹木画についての研究

かわらず「現実生活が適応的」な状態や、「内面の葛藤状態」の解決を図らない状態は、自我発達の未熟さによるものと考えられる。

青年期は、知的発達により抽象思考が可能となり、それに伴い自己の客観化が可能となる。自我同一性を確率する時期であり、自分に対する自分自身のイメージが明確になる時期である。児童期までの絶対的な自己の意識が崩れ、自分を客観的に見始めて自我同一性を獲得するまでのこの時期は、自分のイメージが曖昧となるため、多くの不安や悩みを抱えているため、社会的な適応行動がとりにくい。

しかるに、この不明確な自己イメージを持つと同時に現実適応的でもあるという。また、内的葛藤状態を意識化しないために心的エネルギーを費やして、社会的に適応しているという。どちらの場合も、内面に関心を持たず、外的なものにのみ関心が注がれている。これは、青年期の心理的特徴というより、むしろ児童期のそれと考えられるのではないだろうか。この点についても、今後さらに検討が必要であろう。

## 参考文献

- (1) Koch K. (林勝造他訳) 1970 日本文化科学者 バウムテスト——樹木画による人格診断法
- (2) 林勝造, 一谷彊 (編著) 1993 バウム・テストの臨床的研究 日本文化科学社
- (3) Koch K., 林勝造, 国吉政一, 一谷彊 (編著) 1980 バウムテストの事例解釈法 日本文化科学社
- (4) 山下真理子 1982 バウムテストの発達の研究——樹冠と幹の発達の傾向及び描写における空間関係 教育心理学研究30(4); 23-28
- (5) 高橋雅春・高橋依子 1986 樹木画テスト 文教書院
- (6) Thomas, G. V. & Silk, A. J. (中川作一監訳) 1996 子どもの描画心理学 法政大学出版局
- (7) 日本描画テスト・描画療法学会編 1994 臨床描画研究Ⅹ特集バウムテスト 金剛出版
- (8) 山田麻有美 1997 青年期の樹木画についての一考察—Koch, C. のバウムテストを基にして 女子聖学院短期大学創立30周年記念論文集
- (9) 山田麻有美 1998a 学生理解の手がかりとしての樹木画についての研究 日本応用心理学会第65回大会発表論文集